

議会だより



ぷくぷくクラブ・クリスマス会(平成30年12月7日)

◆ 目 次 ◆

- 12月定例会で審議したこと 2~4
- 12月定例会 賛否表 4
- 一般質問7人が町政を問う 5~12
- 常任委員会報告 13
- 研修報告・議会日誌 14~15
- 町民の声・編集後記 16

佐世保市及び佐々町における

連携協約締結の件

否決

12月定例会で
審議したこと

12月定例会は、12月18日から20日までの3日間の会期で開かれました。

町長提出の人事院勧告に伴う給与条例の一部改正2件、佐世保市及び佐々町における連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議の件、平成30年度補正予算6件のほか、固定資産評価審査委員会委員選任同意1件の計10件を審議しました。なお、一般質問は7人が行いました。

質疑

問 I・R・カジノ誘致に佐々町も協力するのか。

答 同じ圏域であり、それを応援するという趣旨だ。

問 カジノでは、ギャンブル依存症が心配される。ギャンブル依存症は病気だ。危険性のあるカジノ誘致応援に、町長や議員が動員されるのか。

答 協力せざるを得ない。ギャンブル依存症も確かにある。圏域で考え、今後の話し合いの中で十分対策を考えていく。

問 自治体の独自性が失われると懸念されている。

る。小さな町に交付税措置が減少することはないのか。独自のまちづくりは事実上認められるのか。

答 交付税が減るという考え方は違う。圏域で魅力を高めながらという趣旨だ。

問 今後新たな観光事業を行う場合は、「広域で考えよ」という指導がくるのではないか。

答 観光船やI・Rもある。そういうことで誘客をやっているわけではない。広域ではないのか、圏域全体で連携しながらやっていかなければならない。

討論

反対討論 浜野 亘

議会への説明が遅い 不明な点が多すぎる

昨年の9月に協議開始の説明を受けた。その後

し尿処理の連携は難しいと外され、今年11月14日の全員協議会では、I・R誘致などの重点事業4項目が追加されたことに、異議が多く出たが、12月12日町長は、33項目で変更なしとされた。定例会当日、ゴミ処理問題が協議項目に追加できたとの報告だった。

私は、広域消防・火葬

さらに連携協約の内容

場・中体連・就労等でお世話になっているし、職員の資質向上のメリットもあると思う、判断に悩みました。

議会に対し、再三にわたり説明会が遅く資料の提示がない状態。佐々町は、合併をせず単独の道を選択した訳で、将来を見据えたとき、唯一人口減少でない町をいかに発展させていくか。また、他の11市町とは課題が違うと思う。連携することによって今以上に負担が増える事業が示されたことは、

賛成討論 平田康範

ゴミ問題など

連携しないとマイナス

広域都市圏連携の29項目の事業について検討している過程で、新たに4事業が示されたことは、

心情的には理解しがたい面もある。

しかしながら今日取り

組んでいる初期救急医療

体制、災害時の出動体制

など連携しておりさら

は、市営の火葬場も使用

している。また、佐世保

市中体連へも参加がで

き、教育面においても連

携している状況にある。

今回の連携事業でも地

域医療体制の維持確保・

災害発生時の相互応援体

制の充実などが示されて

おり、佐々町の重要課題

であるゴミ処理について

は、他の連携事業と同等

の事業と捉え直ちに協議

に入ることが示された。

連携協約を締結しな

かった時は、町民には

色々な面でマイナスにな

ると判断します。

享受出来るよう取り進め
る事が妥当と判断し、賛
成とします。

反対討論 永田勝美

IR・ゴリ押し・平等

互恵の立場ではない

自治体間の連携は、当

然対等平等であり、連携

すべき課題では、協調的

な関係を作っていくべき

と考えます。

ゴミ処理の問題は、

佐々町にとって重要な課

題です。これは一部事務

組合方式の連携で良いと

考えます。現に消防や救

急・火葬施設等などでは

そうした連携ができてい

るのに、なぜゴミ問題だ

けが広域都市圏でなけれ

ばならないのか。

広域都市圏連携という

のは、中核都市が経済成
長を引っ張るとい

ろがミソです。対等平等
の関係ではない所がポイ
ントです。

協議を続けてきた課題

は横に置いて、IR誘致

等、4項目だけは11月段

階でゴリ押しし、テーマ

に加えてくる。こんな対

応は決して平等互恵の立

場に立っていない。

また、ギャンブル依存

症が懸念される、カジノ

を含んだ、今回の連携協

定への参加は見送るべき

と判断します。

賛成討論 阿部 豊

佐世保の発展なくして

佐々町の発展もない

佐世保市との携わり方

が深いのは佐々町ではな

いか。住民の行き来も一

番が佐世保です。今回の

連携中核都市圏形成にお
いては、圏域全体の経済

成長・高次都市機能の集
積強化、圏域全体の生活
関連機能サービスの向

上、人口減少、少子高齢

化、地域経済の活性化と

利便性向上に取り組むと

いう事です。

スタートは、全体で48

事業のテーマで協議さ

れ、佐々町住民のプラス

になるのではと、29項目

に絞られたと伺ってい

る。

私が申し上げたいの

は、生活機能の強化部分

については、今回連携協

約を結ぶのが得策と判断

します。

佐世保の発展なくして

佐々町の発展も無いとの

持論をもっており、賛成

とします。

反対討論 須藤敏規

住民への説明会を行

うべき・IRは反対

まず、佐々町の立ち位

置を考えますと平成の市

町村合併が推進され、幾

多の課題苦難を乗り越

え、当時の町長・議会・

町民一丸となって将来の

安らかな生活が送れるよ

う努力され、単独の道を

選択しました。

あれから10年余り、今

回また広域連携の名のも

とに、地域を合併に近い

方策で、首長・議会に対

して選択を求めています

す。今回は自ら決定、選

んだ道は自治体の責任に

なるわけです。1点目、

こういう重大な案件は広

く町民に意見を求める説

明会の開催をするべき。

2点目は、町長は、統合

型リゾート・IR計画の

カジノ誘致に対して推進
賛成の考えである。この
事業を選定するにあた

り、首長会議の中の資

料を読むと、おおむね5

年で達成できる事業を選

ぶという条件が付いてい

ました。全体を見ると、

今から協議する事業は5

年以内に達成出来るとは

考えられません。以上の

ことから反対とします。



人事案件

○固定資産評価

審査委員会委員

辻 晋八 さん

(再任)

任期 平成30年12月

から3年間

平成30年度一般会計補正予算(第3号)

可決

2億47万円を増額補正し、予算総額は61億8,225万円

平成30年度特別会計補正予算

可決

国民健康保険特別会計(第2号)	8,452千円を減額(予算総額14億6,740万円)
介護保険特別会計(第2号)	10,927千円を増額(予算総額11億8,216万円)
国保診療所特別会計(第2号)	108千円を増額(予算総額1,009万円)
公共下水道事業特別会計(第2号)	81,741千円を増額(予算総額10億4,535万円)
水道事業会計(第2号)	補正額なし(費用調整)(予算総額3億6,311万円)

平成30年12月定例会 賛否表

○は賛成 ×は反対

議案番号	議案件名	永安文男	浜野亘	永田勝美	長谷川忠	阿部豊	橋本義雄	平田康範	須藤敏規	川副善敬	淡田邦夫	評決数	結果
72	町長及び副町長の給与に関する条例等の一部改正の件	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
73	職員の給与に関する条例の一部改正の件	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
74	佐世保市及び佐々町における連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議の件	×	×	×	○	○	○	○	×	×		4対5	否決
75	平成30年度 佐々町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
76	平成30年度 佐々町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	淡田議長は採決に加わりません	9対0	可決
77	平成30年度 佐々町介護保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
78	平成30年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
79	平成30年度 佐々町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
80	平成30年度 佐々町水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
81	固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	同意
発議第4号	佐々町議会傍聴規則の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決
発議第5号	議員の派遣について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9対0	可決

活かそう
町民の声

議員はここに着眼

7人が町政の方針を問う!!

平田 康範 議員(一問一答) 6

- ① 学校検診の充実について
- ② 新年度の農業政策について
- ③ 町道の維持管理体制について

須藤 敏規 議員(一問一答) 7

- ① 働き方について

浜野 亘 議員(一問一答) 8

- ① 林道や河川敷の草刈り等の道路整備について
- ② 町民の健康づくりと介護予防事業について
- ③ ふるさと納税の実績とPRの方法について
- ④ 西九州させば広域都市圏連携事業について

川副 善敬 議員(一問一答) 9

- ① 観光行政について
- ② 児童虐待の防止と安全確保について
- ③ 企業誘致と工業団地の造成について

永安 文男 議員(一問一答) 10

- ① 防災対策について
- ② 道路網の計画について

永田 勝美 議員(一問一答) 11

- ① 町内交通の整備について
- ② 教育環境の整備について
- ③ 国保制度の改善に向けて
- ④ 原発問題と災害対策について

橋本 義雄 議員(一問一答) 12

- ① 桜について
- ② 菖蒲園について
- ③ シロウオ祭り・米づくり体験について

平成31年1月6日
佐々町消防団出初式での一斉放水



◎一般質問の記事について

質問した議員が執筆したものです。

◎一般質問方法

【一括質問一括答弁】 議員が質問項目すべてを一括して質問。その後町側がその質問項目について一括して答弁を行います。

【一問一答方式】 文字どおり一つの質問項目ごとに町側から答弁を行います。

中学校健康検診でピロリ菌感染検査を

専門機関の結果を踏まえ検討する

全国的に中学校の健康検診で、がんリスク検診としてピロリ菌感染検診が行われていることから本町の考えを質した。



平田 康 範

■ 質 問

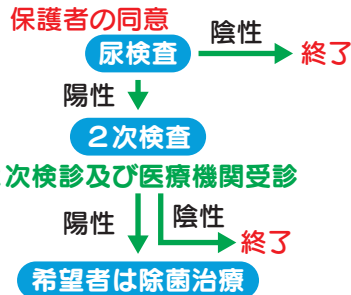
ピロリ菌は近年の研究で胃がんとの関連が指摘されており、世界保健機構は胃がん対策ではピロリ菌除菌に重点を置くべきと発表している。

また、国内の専門部会はピロリ菌感染の予防や治療に向けた指針で、中高生の若い年齢層での検査が特に重要とも指摘している。

そのようなことから、ピロリ菌感染検査や陽性者の除菌治療を市町村や都道府県単位で多くの自治体を取り組んでいる。

本町でも、新年度からの学校検診に取り入れる考えはないか。

ピロリ菌感染検診の流れ



■ 町 長

日本ヘリコバクター学会（ピロリ菌に関する研究機関）の指針を受け、学校検診での尿検査とあわせ実施できないか、教育委員会事務局で調査している。

■ 教育長

日本小児栄養消化器肝臓学会は、がんになるリスクの高い胃粘膜萎縮が基本的には子供にないことから、子供に一律に検査と除菌を行うことは推奨できないと指摘している。

一方、日本ヘリコバクター学会は早期の除菌を提言している。

医学会の中で見解が大きく分かれている状況であるので、新年度からの実施は慎重にならないを得ない。

学会内で対応、議論していくとの報道もあるので、今後の専門的な議論を注視していきたい。

山間部の町道整備を

町の責務として取り組む

道路法に基づく道路管理者としての考えを質した。

■ 質 問

山間部においてはイノシシが町道法面の草の根を掘起すことから土砂や木の葉が排水路に堆積している。

結果として、排水路の機能が著しく損なわれ、水が道路に溢れ出し通行に障害が生じている。

住民の大切な生活道路は道路管理者の責務として対策を講じるべきと思うが、どのような考えか。

■ 町 長

住民の方が安全で安心して通行できるように道路の維持管理に努めることは町の責務である。十分な対策を講じなければと考えている。

イノシシ被害により土砂や木の葉が堆積した山間部の排水路



支援制度の新設を 町としての方向性を見出したい

■ 質 問

中山間地域の集落営農組織を中核として、農地の集約・農作業の受託・農産物の販売などを行う新たな組織を編成した組織に対しては、何らかの支援制度も必要ではないのか。

■ 町 長

町単独の補助制度はなく国・県の補助事業を活用して取り組みしているが、他の市町村などの情報を参考に研究し、町としての方向性を見いだせればと考えている。



須藤 敏規

庁舎建て替えはどうか

着手出来るように

早急に方向性を示させて頂きたい

■ 質問

庁舎建て替え問題について、どう取り組もうとされているのか。

■ 町長

昭和44年に建設しており、耐震基準を満たしていない。建替えの方が望ましい。

災害時に機能できる施設。役場内で調査検討した経過を踏まえて方向性について説明したい。

最優先的にして、任期2年半位ある訳ですが、着手出来る様に早急に方向性を示させて頂きたい。

敷地の面積、移転費用、他施設との連携ということを検討。

計画案は、事前に住民の方の開示しながら、住民アンケートとか、より良いものを造るという庁舎の建設構想という意見を聞かなければならないと思う。

公務員の副業

実情を見ながら

必要性を判断

■ 質問

副業の幅を広めて地域活動の担い手として可能とする考えはないのか。

■ 町長

原則として営利企業の副業は禁止されている。任命権者の許可があれば勤務時間外に限って副業は可能である。

今でも職員は、町内会の活動やスポーツの指導、地域に貢献する活動には参加しているのではない。

今後、実情を見ながら必要性を判断しなければと考えている。

■ 質問

1人許可を与えていると聞いているが、許可基準はどうなっているのか。

■ 副町長

人事院の規則を準用して、佐々町は事務取扱規程を設けている。人事院規則にある500万円の基準については、申請で500万円未満とするような考え方である。相続の場合は、最高裁が500万円を超えても承認されている。

ただし、職務専念できない状態では許可はできない。管理等については、第三者に委託する。信用失墜行為の禁止、職務専念義務があるため金儲け目的だけで拡大することがないようにすべきと弁護士より助言をいただいている。

入国管理制度が4月から改正されるが

仕組みを構築しなければならぬ

■ 質問

4月から新たな入国管理制度が始まるが、どうお考えか。

■ 町長

外国人で住民登録されている方が42人。その中で特別永住者が10人。永住者10人。技能実習12人。教育6人。日本人配偶者4人。議会に報告しながら意見を聞きながら考えていきたい。

一番の課題は、言葉の壁によるコミュニケーションの問題。

具体的なものは、考えていない。今後は、通訳などの対応とか仕組みを構築しなければならぬのではないかと考えている。

生涯活躍のまち推進業務支援で何をするのか

佐々版CCRCの推進

■ 質問

後期計画の中で何をしようとしているのか。

■ 町長

佐々町総合計画の後期計画、まち・ひと・しごと総合戦略に掲げる佐々版のCCRCの生涯活躍のまちを推進する担当業務。国土交通省が佐々町を核として官民連携事業の可能性調査業務について最終的な将来の方向性を固める段階である。

住民福祉課長の職を越えて、暫定的に引き続き業務の推進をお願いした。

■ 質問

CCRCについては、受入体制が十分に論議されていない。他に取り組むべき課題がある。

一般廃棄物の処理問題、水道ビジョンの水問題、公営住宅の長寿命化の住宅政策とか真剣に取り組んで頂きたい。計画表を何故出して頂けないのか。

■ 町長

急ぐ事業というか、ごみ処理、し尿処理、庁舎建設、学校の施設、全体的に早く示さなければならぬが、なるべく早く財政課の方から出させて頂きたい。

■ 総務理事

年明けにできるだけ早い時期に議会にお示しするように準備したい。

10月11日の首長会議で、ごみ処理の要望をされたのか

その「させば連携事業」首長会議には出席していない

西九州させば広域都市圏連携事業について、執行側は議会を報告の場としている。議員の意見を聞かずに、町の発展や町民の福祉の向上は考えられないので、改善を求めるため質問した。



浜野 亘

■ 質問

10月4日の幹事会で「連携ビジョン」が示されていて、なぜ12月12日になって配布されたのか。

■ 総務理事

11月14日の全員協議会では、追加の4項目の説明をしたいと思ひ、提示していません。

■ 質問

10月11日に連携事業の首長会議があつて、町の重要課題である「ごみ処理問題」を、なぜ協議項目に入れなかったのか。

■ 町長

その首長会議には行つていません。

■ 質問

カジノを含む「R誘致」に賛成の立場だと理解してよいか。

■ 町長

カジノだけに賛成ではなく、追加の4項目すべてに賛成しました。

林道の雑草の伐採はしないのか

現状を見て検討

させて欲しい

林道などの管理について、ススキなどで緊急車の通行が

妨げられている。また、林道に亀裂があり、地滑りの危険が心配で、維持管理の改善を求めるため質問した。

■ 質問

古川岳展望台の駐車場へ行く林道古川真竹谷線は、雑草が生い茂り、緊急車などは通行できないが。

■ 町長

管理は要望された受益者で行われるべきです。また危険箇所は、状況を把握しながら対応します。



林道古川真竹谷線

■ 質問

要望があつて、町道は草を刈つてあつたが、残っている林道は、樹木の伐採や草刈りをされないのか。

■ 町長

現状を担当に見させて、検討させていただきます。

■ 質問

この草刈りの件は、先日の

町内会長会でも、要望があつたのではないのか。

■ 事業理事

所有者の関係で、立木は勝手に切れませんし、管理について内部で協議したい。

健康づくりと介護 予防事業の推進は

健康寿命の延伸のため 事業展開していく

介護予防ボランティアの皆様のご協力により、介護予防事業の取組が評価されましたが、町民の健康寿命を伸ばす政策として40代からを推進するため質問した。

■ 質問

介護予防前の年代から、健康寿命を伸ばす政策をしてはどうか。

■ 町長

元気で生き生き過ごすため、健康寿命を伸ばすことは大切だと思います。

■ 質問

グループを形成し「筋肉量を増やそうプロジェクト」などを取り組んではどうか。

ふるさと納税の状況 と偽サイトに注意

現在6千3百万円余り HPは問題ない

ふるさと納税は、自治体による争奪戦の様相があり、寄付の状況やPRの方法などを尋ね、また、ホームページ（HP）での偽サイトなどについて、疑問があつたので質問した。

■ 質問

近年は約1千万円余りであつたが、現在の状況はどうか。

■ 町長

9月にHPを更新し、ふるさと納税のPRをトップ画面に移して、現在6千3百万円余りになっています。

■ 質問

過度の返礼品が規制されることになるが、また、HPの偽サイトが見つかつているが、町は大丈夫か。

■ 総務理事

寄附額の3割以内で対応し、偽サイトの問題は発生していません。



川 副 善 敬

今後の町の観光の方針と施策は

いままでの地域の祭りから、佐世保市に寄港する大型客船などの観光客が立ち寄られるよう、環境整備とかPRを工夫したい

■ 質 問

大きな観光目的よりも、先ず、総合計画にもあるように皿山公園、体験農園などの施設整備を行い、佐々川の自然を活かし、三大花まつりの充実が必要では。

■ 町 長

観光客の流れとかニーズの調査を平成31年度より行い、データを活用し、商工会、観光協会、住民の皆様と協力して、観光行政を進めたい。

観光協会との運営補助と所管課の在り方について

28年度に地方創生加速化交付金3千5百万を事業補助金として

■ 質 問

観光協会は会則違反で27・28年度は会費を徴収していない。担当課は何故、指導しなかったか。

また、実体が伴わない会に、事業主体として、移住、定住を目的とする交付金を補助金として出すのは不適切ではな

いか。

これは、観光ではなく所管課の業務ではないか。

観光協会をNPO法人として組織を再編し、観光行政を委託してはどうか。

観光情報センターを駅前に移転し、皿山公園、体験農園など、公園の管理、公共施設の維持管理を指定管理者制度を使い、民間で出来るものは民間にまかせたらどうか。

■ 住民福祉課長(元産経課長)

町外からの客の誘致の目的で観光協会があるべきと思いますが、移住定住の事業主体に町がなれないということでした。

もろぶた寿司は実施できま

■ 産経課長

観光協会の事務局を当課で担っておりませんが、会則に適切に対応出来ず、申し訳なく、今後、指導出来るよう進めていきます。

児童虐待の防止と安全確保について

国の緊急対策を受け相談体制、専門性の強化をはかる

■ 質 問

平成29年の児童相談所が対応した分で、長崎県の市町村が対応した事案は虐待事案501件と前年度を3割も増加しているが。

児童相談所と警察が48時間以内に強制対応ができるようになったが。

■ 町 長

本町の件数は29年度で6所帯の13人です。ほとんどがネグレクトです。

厚労省の素案では学校と健康相談センターなどと情報を共有し、町は子どもにも迅速に対応しなければならぬと考えています。

SSKから1億5百万で購入した土地は5年半経過しても進展がないが

用地買収が進んでいない、県の事業承認が難しい任期中に取りかかれればと

■ 質 問

土地を購入する時に、温泉施設の失敗の件もあるので、地主全員(13人)との契約、覚書でも取ってからと発言したが、町長は広い方がいい、リスクはある、責任はとりますとの答弁だったが。

■ 町 長

あと、6人の地権者が未買収、残り6.3ヘクタールです。税務署の承認を得て特別措置法の適用で進めていきたいと、私の任期中に取りかかれればと思っています。

地域防災計画の見直しはどうなったのか

来年度以降の実施を予定している

自然災害の多発で、全国各地で多くの被害が発生した。日頃からみんな防災意識を高めていくことが重要であることから、現在の防災対策について質問を行った。



永 安 文 男

■ 質 問

地域防災計画の見直しを平成30年度に取り組むとのことだったが、その進捗状況は。

■ 町 長

地域防災計画及び職員の初動対応マニュアルの見直し、災害時の事業継続計画作成は、来年度以降の実施を予定しています。

■ 質 問

佐々町の総合ハザードマップの作成で、各地区の状況を把握して作られているのか。

■ 総務課長

自主防災組織で避難経路等の危険性を判断するためのハザードマップを作成している。各地区の中で研究し、しっかりと判断していただくための防災の力を高めたいということで作成しています。

■ 質 問

地域防災活動の担い手となる、防災士・地域防災リーダーの育成は。

■ 町 長

現在本町では21人の防災士がおられます。

県主催の自主防災リーダー養成講座に参加して経験を積んでもらったり、消防団の分

団長経験者の方々によっていただいたりして体制づくりをやらなければならないと思っています。

■ 質 問

指令本部となる役場の建て替え計画は。

■ 町 長

緊急保全事業が平成32年度までに対応しなければならぬので、早急に検討していくようにしたい。



平成14年の冠水状況

町全体の道路網の整備計画は

新たな計画を策定しなければならぬ

佐々町の町づくりの視点から、年次的計画的な主幹道路の計画検討をすべきと思い質問を行った。

■ 質 問

道路網の策定計画、スケジュールは。

■ 町 長

前回平成6年に作っており、新たな計画を策定しなければと思っています。平成31年度に計上しながら、目標は一年かけて計画策定をやっていきたいと考えています。

■ 質 問

大新田地区の道路整備の対応はいかに。

■ 町 長

現状の渋滞緩和を図り、スムーズな車とか人の流れを確保するためには、バイパス的な道路の検討も必要ではないかと考えています。しかし、今後西九州自動車道の延伸で、

車の流れがどうなるか等を注視しなければならぬのではと思っています。

■ 質 問

生活道路の安全、防災対策の面からの道路整備をどう考えるか。

■ 町 長

長年の住宅形成の中で、道路が狭いとか、緊急車両が進入できないというのは各地区にあります。

住民の貴重な財産を守る上でも大切であり、解消しなければと思っていますので、地権者の協力を得ながら少しずつでも全体の予算の中で調整をしていかなければと考えております。



芳ノ浦地区の狭小な道路



永田 勝美

町内循環バスの検討を求める

町民ニーズ調査を行い検討する

■ 質問

現在行われている75才以上高齢者への外出支援は、大変喜ばれている。しかし、実際の利用は対象者の約半数、交付チケットの約半数で全体利用は4分の1にとどまっている。利便性の向上に向けた検討が必要だ。一方で、児童・生徒が下校時「ひとり帰り」となる場合や、通院・買い物に不便だという町民のみなさんの外出を支援する手段として、一回100円程度で利用できる「町内循環バス」を検討してはどうか。タクシーと併用することで効果は高まるのではないか。

■ 町長

地域福祉計画やニーズ調査を通して循環バスが緊急にすすめるべきかを検討していく。ニーズ調査は今年度いっぱいをかけてすすめていく。

口石小学校グラウンドの水はけ改善を

授業に影響が出ないよう検討していく

学校給食費の全額助成を求める

■ 質問

子育ての負担は年々大きくなっており、文科省調査でも小学校で年間30万・中学校では45万円もの負担。佐々町は給食費助成は県下でも先進的な取り組みを行っているが、そもそも義務教育費無料という憲法26条の規定から見ても、本来国が給食費の全額を負担すべきものだ。すでに全国では82の市町村で無償化が実施されている。佐々町でも実施する考えはないか。実施に向けた検討を求める。

■ 町長

現段階で給食費一部補助に1700万円を使っている。全額補助を行うためには年間5700万円が必要となり、あらたに4000万円の負担を行うことはむずかしい。

国保の多子世帯への支援を求める

■ 質問

協会けんぽなどと比較して2倍以上高い国保税。最も不公平な制度である世帯人数にかかると「均等割」は、せめて3人目からのこどもの分は免除するべきではないか。町の負担額は年間134万円程度、早急に実現するよう求める。できる条件のあるところから実施すべきだ。

■ 町長

町としてあらたな減免措置を設けることはなかなかできない。検討させてほしい。

原発再稼働の一方で太陽光出力制限は理不尽

町長として意見を言うことは考えていない

■ 質問

町民は原発再稼働反対という方が多い。町民の声を聞か

ないで民主主義は成り立たないのではないか。こども達に「負の遺産」を残す事があつてはならない。

■ 町長

原発の危険性は認識しているが、国の方針に対して意見を言うことは考えていない。

町として防災対策専任者の配置を

担当職員の充実を検討する

■ 質問

現在、町の防災担当者は総務課職員が兼務している。各地の経験に学び、防災の研修なども充実していくためには、兼任でなく専任の担当者の配置は不可欠と考えるがどうか。

■ 町長

全町的な防災計画を立てていかなければならない。防災担当職員の充実は今後十分に検討していきたい。

公園の桜の生かし方を考えてはどうか

桜の植え替え、植栽についても 十分研究しながら取り組んで行きたい



橋本 義雄

■ 質 問

平成16年・17年に桜の里づくりで植栽されてから13年が過ぎようとしています。大きく成長した樹木もあれば、枯れてしまった木も沢山あります。成長した樹木を生かし、各公園の桜の生かし方を考えてみたらどうですか。例えば、菖蒲園の周りには十月桜が10本ほどありますがそれに四季桜を加え、桜と紅葉が同時に見られる公園にしたらどうか。

■ 町 長

桜と紅葉と一緒に見られるという事は大変素晴らしいことだと思っています。そういう事であれば、町としても十分研究しながら検討させていただきます。



菖蒲園内の十月桜

■ 質 問

桜堤の河津桜についてですが、桜が枯れている部分が100m以上ありますので、そこに植栽することで、西九州道路からよく見えるようになります。三大花祭りを充実させるためにも、少しずつ加えていったらどうか。

■ 町 長

西九州自動車道路が新たに延伸をするわけです。その中で良く見えるようになることで、そこら辺も併せて検討させていただきます。



桜堤の河津桜

どう管理していく 菖蒲園

民間業者委託等も考え、適切な管理を行う

■ 質 問

大村市に次ぐ北松の菖蒲園として地域の皆様に毎年期待されています。しかしながら、毎年株分けをするたび色が片寄ってきました。新しい品種を取り入れたり、大村市に株の相談をする。また、株分け時に色を選別し植え付けるなど、方法を考えたらどうか。

■ 町 長

この問題の対応は、作業班だけでは難しい。専門家の助言とか技術的な支援が必要と考えている。民間委託等、適切な管理を行っていく。



地域の人たちに喜ばれる菖蒲園に

シロウオ祭り・ 米作り体験について

■ 質 問

昨年は産業経済課でシロウオ体験が行われ、今年は地域おこし協力隊で行われた。来年は誰がこの行事を行うのか。また、地域おこし協力隊で行っていた米作り体験は、どうなるのか。

■ 町 長

シロウオ体験につきましては、河津桜・シロウオ祭り実行委員会が今年も継続して実施したいという申し出を受けており、現在担当課と協議中です。米作り体験につきましては、現時点では継続は厳しい状況です。



四ツ手網によるシロウオ体験

常任委員会報告

総務厚生委員会

所管事務調査

11月27日(火)

1. 条例等について

① 佐々町水道事業の設置等に関する条例の全部を改正する条例

② 佐々町公共下水道条例等の一部を改正する条例

例

右記、①②の条例検討を行ってきたが、内容について、平成31年4月からの企業会計移行を前提としたものであった。今回諸般の事情により移行時期を1年延期したい旨の説明があり、委員会として了承した。

③ 佐々町職員定数条例の一部を改正する条例

右記①②に伴い改正予定であったが、取り下げとなったため、連動して

3. その他

① 会計年度任用職員について

現在の検討状況、今後のスケジュール等について説明を受けた。

② 投票所及び投票所区割りの見直しについて

現行投票所区割り毎の有権者数の差が大きくなっている事。

また、第一投票所であった佐々町幼稚園が閉園、解体工事中である。これらの事情から投票所、投票区の抜本見直しを行う旨の説明を受けた。実施時期は平成31年4月予定の長崎県議会議員選挙から予定。

③ コンビニ収納について

佐々町でもコンビニ収納を実施するための進捗状況報告を受けた。実施時期は平成31年4月を予定。

産業建設文教委員会

所管事務調査

11月15日(木)

小中学校空調設備設置計画の変更の件

小中学校で48の普通教室に設置予定を、特別教室などへの設置と更新を含め、全85教室にする方針が示された。

平野ポンプ所再構築事業の件

平野第一ポンプ所・平野第二ポンプ所は、各5トンと非常に小さく、漏水等があった場合は、断水が発生するなどの状況から再構築案が示された。

また、ポンプ所新設の土地選定について3案が示され、A案で進めていきたい旨の説明をうけ、継続調査とした。

公共下水道事業全体計画・変更認可申請の件

公共下水道の変更認可を今年度完了し詳細設計を行う予定としていたが、変更認可について、県との調整等の事前協議に時間を要したために、詳細設計を31年4月より行うことが示され継続調査とした。

11月26日(月)

西九州自動車道延伸に伴う道路構想の件

西九州自動車道松浦は、佐々町の延伸計画では、佐々インターから松浦鉄道線路までの間が盛り土で計画されている。現在の町道大新田線の幅員を15メートル確保するための道路構想が示されたが、継続調査とした。

空き家対策の件

佐々町空き家等対策計画を昨年度に策定しており、計画の方針に基づき、新年度より佐々町老朽空家等解体補助金制度(案)及び、佐々町空家等活用支援補助金制度(案)を検討している旨の説明を受け継続調査とした。

学校給食施設整備の件

学校給食は、学校給食法に基づき学校教育の一環として実施されているが、本町は施設の老朽化など課題も多く、学校給食を取り巻く状況を踏まえ、佐々町学校給食施設建設基本方針が策定中であり、学校給食施設整備検討委員会の資料に基づき説明を受けたが、課題も多くあり継続調査とした。

先進地視察研修

◆日時 平成30年11月7日(水)・8日(木)

◆場所 日田市バイオマス資源化センター

津久見市し尿等前処理施設

臼杵市し尿等前処理施設

◆参加者 議員9人(淡田・川副・須藤・橋本・平田
阿部・永田・浜野・長谷川)

バイオマス資源化センター

初日の日田市バイオマス資源化センターは、生ゴミや豚糞尿などの廃棄物をメタン発酵処理して、メタンガスで発電を行う先進技術を導入する画期的な施設であった。また、メタン発酵の消化液の一部を加熱殺菌処理し、液肥利用すると共に固形物は堆肥化するシステムを導入。汚水は施設内で一次処理後、下水処理場で最終処理し河

川放流。施設は日田センターに近接した土地で、冬野菜の作付けが行われている田園地区でありました。施設見学終了後の感想は、豚糞尿の臭気が強く、日田市の人口は減少しているのに、生ゴミの排出量はこの10年間であまり減少効果はない。バイオマスでガスエンジンを稼働させ発電させても、一日平均が一般家庭の約2

40軒分とのことでした。

また、収支決算状況も平成18年～平成29年の推移を見ても赤字が続いている現状。堆肥袋(12キロ入り)は50円で販売されているのに、液肥は無料にて提供されていた。ペットボトルで持ち帰る住民はいたが、タンクローリー車を借用した農耕肥料としての活用は現在はなく、中型・小型のタンクローリー車3台の稼働は全くない状態で、車庫に止められていた。また、今後の設備老朽化に伴い、将来における補修費が高額(外国製)な部品があり、悩ましい問題との事。

視察研修後、バイオ

マス資源活用事業には、沢山の課題があると感じた。



日田市バイオマス資源化センター

し尿等前処理施設

2日にかけて津久見市・臼杵市のし尿等前処理施設を視察。両施設ともに、し尿等前処理施設システムにはあまり違いは見受けられなかった。しかし、臼杵市の施設の方が津久見市の施設より10年ほど前に建てられたにも

かわらず、し尿等受け入れをする管理設備棟の差なのだろうか、臭気があまり感じられなかった。

この違いの要因はし尿等を受け入れるトラックスケール施設が嚴重な二重扉で管理されていた為なのか、施設外には臭気を感じることはなかった。また、津久見市のし尿等前処理施設より臼杵市し尿等前処理施設の敷地面

積が広く、し尿等処理能力も2倍弱ほどあることから優位性が感じられた。

今回、両施設を視察したことにより、これからのし尿等前処理施設の建設計画に大変、参考となった。

今後は、し尿等前処理施設建設予定地周辺の住民説明会を行い、理解を求めなくてはならない。

長谷川 忠



臼杵市し尿等前処理施設

長崎県への要望活動を行う

期 日

平成30年11月22日

会 場 長崎県庁

出席者

古庄町長ほか町幹部
職員、淡田議長ほか
常任委員長及び副委
員長

地元県議会議員の同席をお願いして、まず第7回健康寿命を伸ばそう！アワード」で『最優秀賞』受賞の報告をして中村知事ほか県幹部に対し、佐々町及び佐々町議会からの要望書を提出しました。

整備

④ 国道204号の歩道

整備

⑤ 2級河川木場川の整備

備

⑥ 2級河川佐々川の浚

渌並びに立ち木伐採

⑦ 佐々川の水利権の見

直しと拡大

県からは、ごみ処理については、長期的には連携していきたい。

一方、佐々川については、流れを阻害する箇所から優先的に工事を進めるが、水利権の見直しは難しい。また、木場川は右岸側を整備するなどの回答がありました。

その後、県議会棟へ移動し、県議会溝口議長へ、同じ要望書を提出して、意見交換をしました。

③ 西九州自動車道「松浦

佐々道路」(大新田、

志方地区間)の高架橋

まちづくりセミナーに参加

期 日 平成30年11月

19日～20日

会 場 全国市町村国

際文化研修所

参加者 浜野巨議員

今回の研修では、『まちづくり』というテーマのもと、「防災、福祉、住民との協働、AI等新

技術の導入など」について、各分野において活躍されている著名な講師により、講演していただき、先進的な事例などを研修してきました。

1日目は2人の先生から講演を聞きました。研修終了後、夕方には全国の市町村から178名が参加した交流会があり、講師や議員と意見交換をしました。

2日目も2人の先生の講演を聞き研修しました。

概要は次の通りです。

① 災害に強いまちづくり(河田恵昭氏)

最近の気象状況では、過去の水防の知恵が役に立たなくなった

② 対話による協働のまちづくり(西原茂樹氏)

自治会を中心に「男女協働サロン」を実施し、職員が地区を担当する

③ データ活用で変わる社会(村上文洋氏)

行政はコスト削減、住民は利便性の向上、企業はビジネスチャンスとなる

④ 地域を健康にするまちづくり(久野譜也氏)

人生100年の時代になって来た、リタイヤして30年～40年をどう過ごすか

議会日誌

11月

5日 西九州自動車道建設促進協議会 理事会

(産業建設文教委員会正副委員長)

7日～8日 先進地視察研修

(日田市・津久見市・臼杵市・うきは市)

9日 議会だより編集委員会

13日 議会だより編集委員会

14日 全員協議会

15日 産業建設文教委員会

19日 西九州自動車道建設促進協議会要望活動

(長崎県知事、長崎県議会議長)

21日 町村議会議長全国大会

22日 県知事・県議会議長への要望活動

(正副議長・正副委員長)

26日 産業建設文教委員会

27日 総務厚生委員会

西九州自動車道建設促進協議会要望活動

(国土交通省九州地方整備局)

29日～30日 西九州自動車道建設促進協議会要望活動

(衆議院、参議院議員会館・自民党本部・財務省・国土交通省)

12月

11日 議会運営委員会

議会だより編集委員会

12日 全員協議会

18日 12月定例会(1日目)

12月定例会(2日目)

19日 議会運営委員会

20日 12月定例会(3日目)

15 佐々町議会だより 第129号(平成31年2月1日)

町民の声

もったいな

物多田舎！活かそう、

遺産と資源

梶原高志郎

①「文化・歴史」

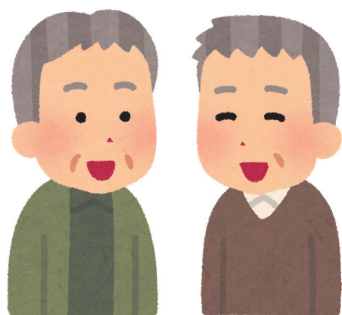
佐々町の貴重な産業遺産として炭鉱遺構・遺跡の完全保存活用を！

②「自然・健康・観光」

「佐々川ウォーキングコース」をフル整備し、長崎県一の「美しさ」と「長さ」を誇るコースの早期実現を！

③「産業・教育」

誰もが「ター／プログラミング」を学べる環境づくり、遊休施設を活用して情報交流施設の整備を！



議会傍聴の意見感想を 申し述べます

宮崎勝紀

平成30年9月、佐々町議会定例会傍聴

委員会報告、総務厚生委員会、産業建設文教委員会、3議員の町政一般質問事項13件、質疑事項等一覧表に従い、熱心に質疑応答された中で、感動を受けましたので感想を申し上げます。

1. 特記事項について

*総合福祉センター前の広場の活用について

*バス、鉄道の利用促進と高齢者の外出支援（バスカード、タクシー券等）

*子育て支援教育環境の整備について

2. 質疑応答での、町長対議員との詰めが、少し甘いように感じました。検討、調査、宜しく、の連発、重要な案件について、厳しく詰めて頂ければ、一般町民として大変有難いと思います。

3. 議員さんが熱心に討議される姿を拝見し大変感動しました。今後の活躍を期待します。

次回定例会の傍聴ご案内

3月を予定しています。日程については、広報無線、佐々町公式ホームページでお知らせします。

12月定例会の傍聴者数は21人でした。

町民の声を 募集中！

TEL62-2101
FAX63-5398

議会だより編集委員会からのお願い



「佐々町議会」の腕章を着用した議会だより編集委員が、取材の折に写真撮影を行うことがありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

議会傍聴アンケート募集

佐々町議会では、傍聴をされた方からご意見・ご要望をいただき、今後の議会運営に役立ててまいりたいと考えています。アンケート用紙につきましては、議場傍聴席入口に設置してありますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

新しい年を迎え、成人式・消防出初め式などに参加して、新成人の決意を聞かせていただき、多くの町民のみなさんとお話をする機会がありました。

12月議会では、多くの議員が一般質問を行い、佐々保市との中枢連携をめぐっては、大きな議論がありました。今号では、その一端を紹介させていただきます。みなさんのご意見やご感想など、お寄せいただければ幸いです。

引き続き、町民と議会をむすぶ「議会だより」となるよう、紙面の改善に努めて参りたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

永田勝美